

「夜更け、針路を朝にとれ」

船坂昭吾 (17) 次男・高校三年

船坂夕一 (26) 長男・商社マン

船坂旭 (24) 長女・司法浪人生

船坂凧 (46) 母・「わだつみ画房」店主

船坂航 (?) 父・故人

潮田洋太 (42) 凧の再婚相手

大灘美波 (29) 従姉妹・AV監督

浅瀬海人 (34) 教師

濱野あおい (23) 美大生

岸部汀 (永遠の17歳) ラジオDJ

1・1

番組ジングル。

ライトが点き、ヘッドホンをした岸部が浮かび上がる。

ここはラジオ番組「ヨコハマホライゾン」のスタジオである。

岸部 はい、みなさんこんばんは。たったいま日付が変わりました。今

日も「ヨコハマホライゾン」、元気に楽しくお送りしていきたい
と思います。パーソナリティは勿論あたし、岸部汀。まずは「ふ
つおた」のコーナー、今日の一発目は……。 「幽霊船」さん。

「汀さん、こんばんは。いつも楽しく聞いています。私は今年大
学を受験する息子がいるのですが、諸事情あって息子と会うこと
ができません。息子の為に私は何をすればいいと思いますか？」
とのことですが……。

溶暗。

1・2

汽笛が鳴り響く。

明転。

夜。

船上である。

中央には通路が続いており、ライブラリへと続いている。また、木箱
がいくつか点在している。

中央にはマストが聳え立っている。

旭と美波がいる。

美波 貯金。

旭 うん、貯金。

美波 貯金かあ。

旭 貯金でしょ、やっぱり。

美波 ……。

旭 ……。

美波 貯金？

旭 貯金。

美波 百万円あったら……。

二人 ……貯金！

美波 あたしらってほんと小市民。

旭 百万ってねえ。

美波 大金だよ？

旭 大金だけどさ。

美波 けど？

旭 現実的すぎる。

美波 車買ったたり？

旭 それくらいじゃん？

美波 いや。きつともつと有効な使い方があるはずなんだよ。それをあ

たしらが見落としてるだけなんだ。

旭 ビデオカメラとか、仕事道具は？ それが一番有意義だよ。

美波 やっぱりそこに落ち着いてしまうのかあ。

旭 いきなりどうしたの、百万円の使いみちとか。

美波 暇だもん。

旭 ……暇じゃないもん。

美波 暇だよ。船の上ってこんな暇なんだね。目的地に着くのを待つば

かりつてのはさあ。

旭 みーねえ、私このまま、暇なままでいいとは思えないんだけど。

美波 じゃあなにすんの。

旭 ……。

美波 焦ってもいいことないよ。

旭 ……うん。

美波 体でも動かせば？ 汗と一緒に不安も流せ！ みたいな。

旭 体動かすって言うてもなあ……。

1・3

唐突に、エアロビクスのダンスミュージックが流れ出す。

浅瀬が持つて現れる。

浅瀬 ワン、トゥー、スリー、フォー、ワン、トゥー、スリー、フォー

……。

二人 ……。

浅瀬 はい、次は手拍子。リズムに合わせて元気よく、はいっ。

浅瀬、エアロビを続ける。

浅瀬 次は前後に動きながら……ワン、トゥー、スリー、フォー、ワン、

トゥー、スリー、フォー……。次は左右に、はいっ。

二人 ……。

二人と浅瀬、目が合う。

浅瀬、運動をいったん止めて。

浅瀬 あ、どうぞ続けて。お気になさらず。

美波 いえ、先生こそお気になさらず……。

浅瀬 そうですか？

旭 アサセンもよく動けるね。

浅瀬 教師は体が資本。

旭 船酔いとかないの？

浅瀬 今のところは。

旭 効果あるんだ、エアロビ。

浅瀬 あるぞ。体調もすこぶるいいしな。

美波 アサセン？

旭 浅瀬先生。略してアサセン。

美波 あー。

旭 私の中から昭吾の時まで、ずっとアサセンって呼ばれてる。

美波 授業の一環ですか？ エアロビ。

浅瀬 どういうことですか？

美波 体育の先生ですよ？

旭 違うよ。

浅瀬 音楽を担当させてもらってます。専門は音楽で。

美波 人は見かけによりませんか。

浅瀬 船坂もやるか？ エアロビ。

旭 あー……遠慮しておきます。

浅瀬 (悲しそうに) そうか……

美波 もったいない。

浅瀬 次はグレイプヴァイン。ワン、トゥー、スリー、フォー、ワン、

トゥー、スリー、フォー……。

浅瀬、エアロビをしながら去る。

1・4

夕一が現れる。

夕一 なあ、旭、みー。

美波 あんたあたしのことまだ「みー」って呼んでんの？

夕一 旭だって呼んでるだろ。

美波 旭とはよく合うけど、あんたと最後にあったの15年前とかだし。

旭 どしたの、お兄ちゃん。

夕一 俺のプリン食べてない？

美波 プリン？

旭 冷蔵庫にあったね。

夕一 食べてない？

旭 ないよ。

美波 ないの？

夕一 ないんだよ。

旭 ちゃんと名前書いてないからだよ。

夕一 楽しみにしてたのになあ

美波 自分ものには名前を書かなくちゃ。

1・5

風、航、現れる。

航 いたいた。

風 夕一、ちょっと。

夕一 どうしたの？

風 甲板に出るハッチが軋むの。

航 油挿そうと思って。工具類はお前の管理だろ？

夕一 前？ 後ろ？

風 前。

夕一 前甲板のハッチね。OK。

航 やつとくぞ？

夕一 ほかのところも見とくよ。

航 悪いな。

夕一 いいよいいよ。

夕一、去ろうとして、

夕一 あ、父さん、母さん。俺のプリン知らない？

航 プリン？

凧 知らないわよ。

夕一 んー、じゃあ先生かなあ……。

夕一、去る。

航 (旭、美波に) プリン？

旭 ないんだって。

美波 冷蔵庫にあったらしいけど。

凧 最近持ち出し表に抜け漏れが多くて。

旭 私は書いてるよ？

美波 私も。

航 ……。

三人 (航を見る) ……。

航 え？ いや、書いてる書いてる。俺もちゃんとやってるよ。

凧 みんな物品の管理なんて、って思ってるかもしれないけど、大事な

ことなんだからね。

航 わかるよ、わかってる。

凧 ここにホルベインの絵具が五本あったとして、四本です、いや六本だ、じゃ発注もできやしないの。

1・6

浅瀬、現れる。体調が悪そう。

浅瀬 ……。

四人 ……。

浅瀬、木箱に座って動かない。

と思えば、吐き気を催して走り出して去る。

美波 酔ってる！？

旭 あんなに余裕かましてたのに！

凧 え？ 大丈夫なの？

航 先生、船初めてとか？

旭 うん。そう言ってた。

美波 でも、ついさっきまで平気そうだったのに。

航 急に来るんだよ。

凧 ちよつと様子見てきましようか。

航 そうだな。

四人、去る。

岸部、現れる。手にはプリンを持っている。

木箱に腰掛けプリンを食べる。

岸部 ……どこ？ ここ。

暗転。

オープニング・アクト

2・1

踏切の音。鳥の鳴き声。

「わだつみ画房」店内である。

潮田と凧が話をしている。

潮田 実際のところ、情勢が安定しないと難しい。

凧 はい。それは、そうだと思います。

潮田 邦人の安全な出国を推し進めてる状況で、個人による渡航は、さすがにね。

凧 それは、大使館のかたが？

潮田 うん。

凧 そうですか……。

潮田 説得の材料がひとつ増えたと考えよう。

凧 いますぐには無理だけど、つてことですよ。

潮田 四年もすれば、ある程度向こうも落ち着いてるだろう。それまでに準備しなくちゃいけないことだって、沢山あるはずだ。

凧 いろいろ、すみません。

潮田 いやいや、いいんです。浪漫があるじゃないですか。

凧 浪漫？

潮田 ええ！ 凧さん、僕はね、経営者としての観点から言わせてもらうと、正直やめたほうがいいとは思ってます。いまだき天然モノも合成モノも、大して発色に差なんてない。自己満足の世界ですよ。だけど、

潮田、だんだんと気分が昂って、

潮田 わざわざ海を超えて……マリンをウルトラするわけです、そんなのはどうしたってわくわくするじゃないですか！ 子供にしか追えない浪漫があるんなら、僕も少しくらい子供に戻ったっていいと思いませんか？

凧 楽しそうですね。

潮田 あはは……もちろん、準備を万端にして、安全を可能な限り確保して、は大前提ですが。

凧 わたしが言っただけ聞いて聞かせます。

潮田 ……昔、日本は黄金の国と呼ばれてたらしいじゃないですか。

凧 ジバング？

潮田 きつと、あの時代の船乗りたちも、こんなわくわくしてたと思うんですよ……。

濱野、現れる。

濱野 すみませーん。

濱野、凧と潮田を見て、

濱野 あ、お取込み中でした？

潮田 おっと失礼。盛り上がっちゃいましたね。

凧 (濱野に) 大丈夫よ。ごめんなさいね、お客さんに気を遣わせちゃって。

潮田 (去ろうとする) それでは、営業時間中に申し訳ない。

凧 いいえ、こちらこそ、わざわざありがとうございます。

潮田 (濱野を見て) 美大の学生さんかな？

濱野 えっ？ あ、はい。

潮田 想像力の翼はためかせ、大空を駆けてくれ！ ガンバ！

潮田、去る。

凧 ごめんなさいね、悪い人じゃないのよ？

濱野 いまのひと、「虹の屋」の社長ですよ？ 駅前ビルの。

凧 あおいちゃん知ってるの？

濱野 あそこが学校に一番近いですから。友達とかは大体あそこで画材買ってると思いますよ。

凧 学校はどう？

濱野 いやあ、実力不足を実感します。

凧 弱気になってちゃだめよ。

濱野 それはもちろん。いまは一秒でも長く絵に向き合うだけです。

凧 最近買ひ物の頻度増えたもんね。

濱野 絵に向き合っていると雑念が消えてくんです。気づいたら、絵の具が……。

凧 今日は何を？

濱野 あ、これください。

凧 ウルトラマリン……本当に青が好きなんだねえ。

濱野 川ばっかり描いてますから。

凧 川って、リバー？

濱野 はい。あ、まだ売れてないですか、あれ。

凧 あんなの滅多に売れないわよ。

濱野 卒業制作で絶対に使いたいです。いまお金溜めてますから。

凧 このあともバイト？

濱野 はい。8連勤です。

凧 体壊さないでよ？

濱野 生活費も稼がなきゃですから。

凧 あれ、仕送りとかは？

濱野 親の反対押し切ってるんで。

凧 ああ、そうなんだ。

濱野 はい！ つかぎゃふんと言わせてやりますよ。

凧 ぎゃふん、って。

濱野 え？ 言いません？ 言いますよね？

凧 言うけど、言わない。

濱野 そうですかねえ。

凧 じゃ、はい。これ、おまけね。

濱野 マイメリじゃないですか。いいんですか。安くないですよ。

凧 売れ残ってもあれだから。

濱野 売れ残ります？

凧 ……そろそろね、畳もうと思ってるの。

濱野 え？

凧 お店。「わだつみ画房」も、来年いっぱいかなあ。

落雷。豪雨。

暗転。

2・2

遷移。船内へ。

浅瀬 停電！ 停電！

旭 昭吾んとこ行ってくる！

浅瀬 俺は甲板に！

美波 あたしも行きます！

現在は航海の最中である。突然の大嵐に船は大きく翻弄され、乗組員たちは右往左往している。

浅瀬が駆け込んでくる。手には懐中電灯。

浅瀬 降ってきた、降ってきたよお！

航 先生、大丈夫ですか。

浅瀬 なんとか。

航 どうでした。

浅瀬 だめです。雨が酷くて波も大きい。揺れが……。

航 この木箱も危ないですね。

浅瀬 片付けましょう。

美波、現れる。手にはビデオカメラを持っている。

美波 打ち付ける波、雄大な大自然の姿……！

航 美波！ 美波！？

美波 おじさん、大時化だ！ 凄い！

航 なにやっつてんだ！

美波 こんな映像、今撮らないでいつ撮るのさ！

浅瀬 命あってこそですよ。

美波 あたしはこういうのが撮りたかったんです！

航 美波、今は嵐が優先だ。

美波 わかってる、わかっているから！

大きな揺れ。三人、よろける。

航 まずいな。

浅瀬 外も見てこないと。

美波 あたしが。

浅瀬 一人じゃ無理だ！

航 俺も行く。

浅瀬 待って！ ブルーシート！

凧、ブルーシートをもって現れる。

凧 あるよ！ あるある！

美波 凧さん！

浅瀬 ありがとうございます！

航 子供たちは？

凧 電気室と昭吾のそこ！

航 大丈夫なのか！

凧 信じるしかないでしょ！

浅瀬 そうです！

美波 やれることをするしかない！

航 とりあえず二手に別れよう！ 前後から見て回ろう！

美波 おじさん、行こう！

凧 先生、行きましょう！

浅瀬 わかりました。

航 気をつけろよ！

凧 うん！

凧、浅瀬、去る。

大きな揺れ。

航、美波、よろめきながら去る。

2・3

浅瀬、現れる。

浅瀬 ふう……。

凧、現れる。

凧 お疲れ様です。

浅瀬 お疲れ様です。

凧 様子はどうでした？

浅瀬 ひとまずは大丈夫なはずですよ。

美波 (声) おばさん！ ブレーカー復旧したってえ！

凧 わかったあ！

凧、壁を探る。電気がつく。

浅瀬 お。

凧 一安心ですね。

浅瀬 ふう……。

凧 揺れには慣れましたか？

浅瀬 まあ、なんとか。

凧 辛かったら……。

浅瀬 いえ。教師たる者、保護者に情けない姿は見せられませんから。

凧 保護者も教師もありませんよ。

浅瀬 ……そうですねえ。

凧 はい。特にこの船の上じゃあ。

浅瀬 あ、でも、体調はいまのところは大丈夫です。やっぱりエアロビが効いてるのかな。

凧 タオルです。どうぞ。

浅瀬 いやはや、かたじけない。

雷鳴。

凧 ……収まりませんね。

浅瀬 まだ使いそうですね、これ（懐中電灯）。

凧 そうですね。

美波、現れる。

美波 びしゃびしゃだよお。

浅瀬 大丈夫ですか？

美波 はい。先生は？

浅瀬 鍛えてますから！

凧 美波ちゃん、タオル。

美波 ありがとうございます。

浅瀬 無事でした？ カメラ。

美波 防水のにした甲斐がありました。（カメラを向けて）先生、一言

お願いします。

浅瀬 水も滴るいい男、なんちゃって。

凧 お父さんは？

美波 昭吾の様子確認してから来るって。

凧 そう。

美波 旭と夕一見ました？

浅瀬 船のなか、ぐるっと見て回るって言ってたよ。

美波 ああ、揺れ凄かったですもんね。

凧 ……わたしも、行ってくるわね。

凧、去る。

美波 ……忙しい。

浅瀬 落ち着かないんじゃないですか。

美波 そういふもんなあ。そうかも。

浅瀬 大灘さんは、昭吾さんと仲がいいんですか？

美波 仲がいいっていうか……えー、なんだろう。いとこなんだけど、

弟みたいなの？ 私は一人っ子だったから。

浅瀬 そうなんですね。

美波 先生は、先生ですもんね。

浅瀬 はい。昭吾くんの担任やらせてもらってます。

美波 学校だとどんな感じなんです？

浅瀬 責任感の強い子ですよ。かといって主張するタイプでもないですね。裏方で、自分の受け持った仕事をきちんと終わらせる、そんな感じの子です。

美波 責任感かぁ。……この船、どこへ行くんだらう。

浅瀬 新大陸ですよ。

美波 いざゆかん、黄金の国ジバングへ、って感じですかねえ。

美波、水平線を見やる。

美波 水平線ってどこですかね？ 折角船の上にいるんだから、見たい

じゃないですか。

浅瀬 うーん、どこだろ。

美波 夜が長くて困っちゃいます。

浅瀬 暗くて見えないね。

美波 撮りたいってずっと思ってるんですけど。

2・4

旭、現れる。

旭 ……なにやってんの？

美波 水平線をねえ。

旭 水平線？

美波 うん。探してたんだけど。

旭 新大陸じゃなくて？

美波 勿論それもそうだよ。だけどそれはまだ先の話でしょ。

旭 わかんないじゃん。

浅瀬 あった！

二人 え？

浅瀬 あれだよ、あれ。あの辺。

三人 (まじまじと見る) ……。

美波 わかった？

旭 わかんない！

旭 (アナウンス) 「十一時になりました。これより定例会議を行いますので、乗組員の皆様は、速やかに集まってください」

旭を見る。旭がいる。

美波 定例会議？

旭 うん。

浅瀬 そんなのあったっけ？

旭 いや、ないですよ。ないですけど。

美波 けど？

旭 けど、なにもしないってのも、アレじゃないですか。

浅瀬 アレ？

旭 アレって言うのは……。

旭、外を見る。

二人、つられて外を見る。暗い海が広がっている。

旭 早く見つけないと。

美波 新大陸？

旭 うん。

美波 船長は昭吾だからなあ。

浅瀬 そう、焦ってもいいことはない。

旭 ……わかってます。

美波 ……着替えてこよっかな。濡れて気持ち悪いわ。

美波、去る。

浅瀬 ぼくも、少し散歩してくるよ。

浅瀬、去る。

旭 ……。

2・5

航、現れる。

航 おう、大丈夫だったか？

旭 お父さん。

航 いやあ、酷い嵐だな。

旭 うん、そうだね。

航 こっちは問題なし。そっちは。

旭 こっちも、とりあえずは。

航 他の人は？ なんかアナウンスあったろ。会議とか、なんとか。

旭 ……ああ。

航 なんかあったんじゃないのか？

旭 あるよ。あったよ。っていうか……あつてる。

航 あつてる？

旭 いままさに、あつてるんだよ。

航 それ、日本語正しいのか？

旭 ……さあ？

航 なんだよそれ。

旭 お父さん、針路の話、しとかない？ 二人だけでもさ。

航 大丈夫だろ。

旭 大丈夫じゃないよ。

航 弟を信じなさい。

旭 だってあいつ優柔不断じゃん。泣き虫だし。

航 いつの話をしてんだ。

旭 ずっとそうじゃなか。ファミレスとかでさ、何食べようか迷って

迷って、結局あたしのがおいしそう、とか言うし。

航 そのくせ頑固だよな。

旭 そう！ こっちのが楽だよって言っても、「姉ちゃんはあるち

いって！」みたいに言われるんだよ？ こっちは善意なのにさ。

航 何事も体験だからな。

旭 だめになってからじゃ遅いんだよ！

航 ……。

旭 ごめん。違って。そうじゃなくて。

航 うん。

旭 ごめん。

航 別に謝られるようなことはしてないだろ。

旭 そうだけど。

航 俺は昭吾に任せるよ。

旭 なにを？

航 なにをって、そりゃあ……。

旭 ……。

航 ……決まってるだろう？ なあ？

夕一、現れる。ペットボトルの水を飲んでいる。

夕一 お疲れ。

航 お疲れ。どこ行ってた？

夕一 バラストタンクの排水やって、タービンの様子見て。

航 ああ。悪いな。

夕一 別に。じっとしてられないっていうか。

航 たまには休めよ。

夕一 みんなは？ なんか、アナウンスあったよね？

航 延期だと。

夕一 あ、そうなんだ。

旭 うん、ごめんね。

夕一 いや、別に。会議？

航 (割り込んで) まだ水あったか？

夕一 え？ ああ、うん。

航 旭、いるか？

旭 あ、うん。ありがとう。

航 どういたしまして。

航 去る。

夕一 会議ってなにやんの？

旭 ……。

夕一 旭？

旭 お兄ちゃんは昭吾の味方だよな？

夕一 え？ うん。

旭 だよな。そうだよな。

夕一 飲むか？

旭 飲まないよ。

夕一 飲むふりでいいよ。

旭 どういうこと？

夕一 ほら、持って。かんぱーい。

旭 乾杯……。

乾杯。

夕一 変な気分は、酒と一緒に飲み下すんだよ。

旭 お酒じゃないじゃん。

夕一 酒を呑むときみたいな気分で、ってことだよ。

旭 わかんない。

夕一 つまり、陽気さ。

旭 陽気さ？

夕一 うん。「乾杯」ってあくまでも「乾杯」って感じだろ。俺はもつ

と、こう、「乾杯ッ！」みたいなのが欲しいわけ。

旭 言い方の問題じゃないの？

夕一 魂の問題だね。

旭 魂。

夕一 応援する感じっていうのかな。

旭 応援？

夕一 俺たちは応援しかできないわけじゃん？

旭 そんなことないと思うよ。

夕一 そうかあ？

旭 ……じゃないと悔しいじゃん。

航、現れる。

航 おい、誰か書いてないやついるぞ。

旭 どうしたの？

航 数が全然合わないんだよ。

夕一 母さんも言ってたねえ。

旭 もつかい言っておかなくちゃね。

航 で、どうした？

夕一 ああ、陽気さが足りないって話。

旭 また変なこと言ってんの。
夕一 いや、応援は大事だろ。

航 「応援」なら「チアーズ」だな。

夕一 チアーズ？

航 アメリカ式の乾杯。

三人、乾杯。

夕一 いいじゃん。

航 イタリアなら「サルデーテ」、スウェーデンなら「スコール」。

旭 スコールは駄目でしょ。

夕一 なんで？

旭 縁起悪いよ、船の上だし。

航 「よーそろー」。

夕一 よーそろー？

航 船の上ならな。

夕一 どういう意味？

航 異常なし。問題なし。このまま真っ直ぐ、よーそろー。

夕一 へえ。……(乾杯)よーそろー。

二人 よーそろー。

夕一 諸君！ 我々は、航海の無事を祈るものである！

旭 諸君？

夕一 いいんだよ。気持ちだよ。……全員、復唱！

航 全員？

夕一 だから気持ちだって。

整列。

夕一 本日天気！

二人 本日天気！

夕一 晴朗なれども！

二人 晴朗なれども！

雷鳴。豪雨。

大きく船が揺れ、全員がよろめく。

夕一 ……？

旭 ……？

夕一 晴朗なれども？

旭 お兄ちゃんが言ったんじゃん！

夕一 晴朗じゃない！

二人 晴朗じゃない！

夕一 ……よーそろー？

航 訊かれても。

夕一 よーそろーでもない！

旭 だめじゃん。

夕一 波高し！

航 誤魔化したな。

夕一 波高し！

二人 波高し！

夕一 よーそろー！

二人 よーそろー！

夕一 各員持ち場につかれたし！

二人 よーそろー！

散り散りに去る。

雷鳴。豪雨

遷移。「ヨコハマホライゾン」ブース。

岸部 さて、嵐の予感が強くなってきましたが、そんなことは関係なしに「ヨコハマホライゾン」は続きますよ！ さてさてお次のお便りは「青い砂浜」さんから！ 「汀お姉さん、こんばんぴー」、はいこんばんぴー。「唐突ですがわたしは夢追い人です。絶対に叶えたい夢があって、それを諦めきれません。親は反対するので、ひとりの力で頑張っ、いつかぎやふんと言わせてみせます。そんなわたしに力をください」とのことですが……。

波の音。海鳥の鳴き声。

全員がそれぞれの位置に座ったり、立ったりしている。緩い円形。

旭 (アナウンス) 「十一時になりました。これより定例会議を行いますので、乗組員の皆様は、速やかに集まってください」

旭、周囲を見回して、

旭 (竹まいを直して) お集まりの皆さんには、既にご承知だとは思いますが、依然として天候は不順、夜明けも遙か、新大陸は影も形も見えません。針路についての、話をしましょう。

全員 ……。

旭 ここに会議の開始を宣言します。

夕一 そういふことか。

旭 そういふこと。

美波 どういふこと？

風 わたしたちには、なにか話し合うべきことがある、ってことではないの？

旭 うん。(全体に) 議題はこの船の針路についてです。

夕一 船長は昭吾だろ。昭吾次第だ。

旭 それは勿論、当然だけど。でも、私たちは無関係じゃない。

美波 話し合う義務があるって？

航 義務って言い方はいやだな。

美波 言葉の問題じゃない？

航 いや、俺たちにあるのは責任なんだろう。

美波 丸く収まればいいねえ。

旭 他人事はやめてよ。

浅瀬 文字通り、乗り掛かった舟、というわけだ。

旭 そう！ 今は足並みをそろえて一致団結しなきゃならないんです！

美波 船頭多くして船山に登るとも言うよ。

旭 みーねえは不満なの？

美波 違うよ。ただ、みんな同じじゃないでしょ。

浅瀬 立場の違いは明確にしておいたほうがいいんじゃないかな。

旭 どういふことですか？

浅瀬 はい。俺はあんまり口を出すつもりはないんです。

旭 先生、それが教師のふるまいですか？ 責任放棄ですか？

浅瀬 違う違う。

美波 根本的には船坂家の問題だもん。

浅瀬 それが言いたかったんです。

美波 あたしも同じ。

旭 個人の自由だとか、好きにさせるとか、それだけじゃあ片手落ちじゃないですか。なにも考えてないのと同じじゃないですか。

美波 何も考えてないわけじゃないよ。

美波 どういふこと？

美波 わたしたちには、なにか話し合うべきことがある、ってことではないの？

美波

美波

美波

美波

美波

美波

旭 でしょ？ 折角集まった私たちなんだから、どうするのが最も省吾が幸せになるか、それを話し合わなきゃいけないと私は思うわけです。

美波 夢を叶えてあげよう、って？

旭 やっぱり、まずは昭吾のやりたいようにやらせてさ、様子を見ながらでいいと思うんだ、わたしは。

夕一 待って待って！

旭 お兄ちゃん、静粛に。

夕一 決めるのは昭吾だろ？

旭 お兄ちゃんはその思わないの？

夕一 え？

旭 思わない？

夕一 思うけどさ。なんていうか……うーん。

旭 もう！ はっきりしてよ！

夕一 そんなに怒るなって。すぐに答えなんて出ないよ。

旭 時間がどれだけあるかもわかんないんだよ。

夕一 急かすなよ。

旭 夜明けはすぐそこに来てるかもしれないんだよ！？

旭 旭、わたしは、昭吾にはまだ早いと思うの。

旭 なんで？ どうして？

旭 高校卒業してすぐなんて、焦りすぎよ。

旭 だから？

旭 大学を出てからでも遅くはないでしょ。

旭 わたしたちが昭吾を応援してやらないでどうするのさ。

浅瀬 急いで出した答えが最善だった試しはないよ。

旭 先生は最善じゃないと思うんです？

浅瀬 過程の話をしてるんだ。

旭 でも、昭吾は。

美波 あーちゃん。

旭 みーねえならわかるよね？

美波 よく言うでしょ、勇気と無謀は違うって。

旭 なんでわかってくれないの？

美波 新大陸見つけられるのなんて一握りなの。一人の成功者の影には、何人も失敗した人たちがいるの。

旭 美波、それはちよっと。

美波 可能性の話だよ。

旭 だから諦めるって？

美波 違う。ただ、夢はいつか必ず叶う！ ……なんて言い続けるにも限界がある。

旭 それこそ成功者の余裕だよ。

美波 成功者？ あたしが？

旭 みーねえはカメラ回して映像撮って、やりたい仕事ができるから簡単に言えるんだよ。

美波 そうでもないわ。

旭 だって、

美波 そうでもないのよ。

旭 話が逸れてるわよ。

旭 アサセンは？ アサセンは先生になりたくって大学行ったんじゃないの？

浅瀬 あはは……あんまり大声で言えないんだが、俺は教師になんてな

りたくなかった。音楽で飯を喰っていきかった。でも、結局、いまの仕事は俺は満喫してるよ。そもそも子供のころは音楽なんて、親に習わされるばかりで大嫌いだった。

美波 何になりたかったんですか？

浅瀬 忍者だよ。

浅瀬 忍者だよ。

不思議な空気。

浅瀬 子供のころから忍者に憧れていてね。影分身とか、火遁の術とか、格好いいだろう？ 小学校くらいのとときかな？ 訓練も毎日していたんだ。こう、凄く成長の速い草を植えるだろう？ それを跳びこしていく。草はどんどん伸びる。それをまた跳びこす。そうしているうちに凄い脚力が付く。だけど、一月もすると、俺の背丈を超えたんだ。百五十センチくらいかな？ 俺は結局、小学校三年の夏休み、一度も跳びこすことはできなかった。俺は負けたんだ。それは背丈ほどもある草への敗北なんかじゃない。もっと大きな、そう、忍者になるという俺の夢への敗北だったんだ……。

全員 ……。

旭 ……大丈夫です。夢を追うのに、遅いってことはないんです。

浅瀬 旭ちゃん。

旭 よーそろー、です。

浅瀬 よーそろー……。

旭 異常なし、問題なし。このまま真つすぐ、よーそろー。

浅瀬 このまま真つすぐ……。

旭 目指しましょう。

浅瀬 今からでもなれるのかな、忍者。

旭 なれますよ、忍者。

夕一 忍者。

美波 忍者……。

凧 忍者？

航 忍者ねえ。

全員、浅瀬に注目。

浅瀬 ……どろん。

全員 ……。

浅瀬 どう？ 消えてる？

旭 (無視して) お父さんは？

航 俺？

旭 さっきから黙ってばっかじゃん。

航 俺は昭吾に任せるよ。

旭 お父さん！ ちゃんと考えてよ！

航 考えてるよ。

旭 無責任だ！

旭 旭、落ち着きなさい。

旭 だって！

凧 旭。

旭 お母さんはどう思うのさ。

凧 変わらないわ。急ぐ必要はない。

旭 みーねえ！

美波 後悔しないならいいんじゃない。

旭 アサセン！

浅瀬 ……ニンニン。

全員 ……。

4・1

岸部が走って現れる。

岸部 なんなの、なんなのここ、なにここ、どこ、なにこれ！ もう！

岸部、全員を見つけ。

岸部 誰！（二人一人を見やりながら）誰！ 誰！ 誰！ 誰！ 誰
なのよ！

夕一 （岸部を見て）誰？

旭 さあ……。

美波 あー！ 岸部汀！ 本人？ 本人だ！

夕一 知ってるの？

美波 だってラジオ聞いているもの！ 映画もこないだ見たわ！

岸部 どこ、ここ！

旭 船です。

岸部 そんなのわかってるってば！ あんた（服を指して）「これなに？」って訊かれたらバカ正直に「服です」って答えるタイプの人間？ 違うでしょ？ そういうときはブランドとかメーカーとかプリントされてるキャラクターとかを答えるものでしょおおお おおお！？

岸部、むせる。

美波 大丈夫ですか！

岸部 大丈夫よ……。

岸部、ペットボトルに入った水を取り出して、飲む。

風 ああっ！

航 犯人見つかったな。

岸部 誰、あんたら。この船の人？

旭 昭吾の姉です。

夕一 兄です。

風 母です。

航 父です。

美波 従妹です！

浅瀬 担任です。

岸部 そんなの知らないってば！ あんたら、あたしが「この船の人？」って聞いてるんだから、バカ正直に「はい」か「いいえ」で答えりゃいいに決まってるでしょおおおおおう！？

浅瀬 言っていることが違う！

夕一 なんだこの女！

岸部 わかんない人を基準に話されても困るんだよお！ あたしはその、昭吾？ 知らないんだからさあ！

旭 知り合いじゃないんですか？

岸部 だからそう言ってるじゃんか！ なにそいつ、有名人なわけ？

全員 ……。

岸部 黙らないでよ！ 黙んなっつーの！ もお！

夕一 母さん。

風 なに？

夕一 有名人なの？

風 そうよ。

岸部 はあ？ あたしを知らないの？

夕一 すいません。

岸部 わかった！ あんた横浜市民じゃないでしょ！ でしょ？

岸部 こないだまでエジプトに。

岸部 ほらきた！ エジプト。エジプトかあ。エジプト人ねえ。はあー、ごめんね、そりゃ知らないわ。何しに日本に来たの？ 観光？ サイン、記念に持って帰る？

夕一 いえ……。

岸部 あら残念。ファンは大事にしなないとね！

旭 あの、岸部さん？

岸部 なに？ サイン欲しい？

美波 欲しいです！ あ、じゃなくて、いつもラジオ聞いてます！

先日出演された映画も見ました！

岸部 これよ！ この反応！（周囲に）いい？ これが正しい横浜市

民の反応なの。わかる？ これが横浜市民のあるべき姿なの。あ

なたたちは横浜市民じゃないの。市営地下鉄も市営バスも乗れな

いしベイスターズもブレイブサンダースも応援できないの。

浅瀬 ブレイブサンダースは川崎ですよ。

岸部 （美波に）映画、どうだった？

美波 絶叫するシーン凄かったです！

岸部 あそこは一発OKだったからね。

美波 めっちゃ迫力ありました！

岸部 当り前よ。

美波 凄いです！

岸部 もっと。

美波 カッコいい！

岸部 天才って。

美波 天才！

岸部 ありがと、ありがと。

美波 握手してもらってもいいですか？

岸部 勿論。

美波 ありがとうございます！ あの、サイン……！

岸部 色紙ある？

美波 シャツなら。

岸部 構わないわ。あたしのサイン入りシャツなんて、ネットオーク

ションなら一万円もするのよ。

美波 とってきます！

美波、去る。

航 売られてるな。

浅瀬 売られてますね。

岸部 （浅瀬に）どう？ あんたは勿論知ってるでしょ？

浅瀬 ヨコハマホライズンでしたっけ？

岸部 惜しい！ 八十点ってとこね。「ヨコハマホライズン」！

「ズ」じゃなくて「ゾ」！

浅瀬 「ゾ」！

岸部 「ヨコハマホライズン」！

浅瀬 「ヨコハマホライズン」！

岸部 毎週日曜の深夜0時から、絶賛放送中よ。よろしくね。なんとっ

て番宣は基本よね！

旭 あの！ 岸部さん！

岸部 なに？

旭 本当に昭吾を知らない？

岸部 知らないってば。気づいたらいた。なんなのここ。どこ、ここ。

全員 ……。

岸部 ま、いいや。こういうことだってあるわよね、きつと。あたしく

らいになるとさ。有名税ってやつよ。ね、そう思わない？

全員 ……。

岸部 黙んなつっの、もう。

全員 ……。

岸部 あ、お構いなく。なんかやってたんでしょ？ 続けてよ。

全員 ……。

岸部 議論？ 会議？ あれだ、十二人の怒れる男だ。それとも三谷幸

喜のほう？ あはは！

旭 関係ない発言は控えてください。

岸部 まあまあ、そんなに怒らないでよ、裁判官。

旭 わたしは裁判官なんかじゃない！

岸部 おお怖ア、邪魔なんてしないわよ。んじゃあね。

岸部、去る。

4・2

旭 なにあの女。

夕一 嵐みたい。

美波、現れる。

美波 あれ、岸部さんは！

夕一 どっか行ったよ。

美波 ええ！ ゆー、なんで引き止めてくれなかったの！

夕一 だって。

美波 あたし呼んでくる。

凧 どうして？

夕一 サインなんてあとでいいじゃん。

美波 違う違う。

浅瀬 違う？

美波 会議でしょ。

凧 それで？

美波 あの人も乗組員だから。

凧 あ。

夕一 そっか。

旭 (気が付いて) 嘘でしょ！

航 なにかの間違いだろ。

浅瀬 そういうことあるもんですか？

夕一 間違い？

浅瀬 うん。

美波 そういう船じゃないでしょ。

旭 でも。

凧 あの人がいるってことは、そういうことなんじゃないの？

旭 お母さんまで。

浅瀬 どうします？

航 オブザーバーが一人増えたな。

夕一 オブザーバーで済むかな？

全員 ……。

航 旭、どうする？

美波 再開するなら呼んでくるけど。

旭 あの人抜きじゃだめなの？

全員 ……。

凧 だめなの、って聞かれるとね。

浅瀬 公平性は欠くんじゃないかな？

美波 意思の統一が必要なんじゃなかったの？

旭 それは…。

美波 ああ、ごめん。嫌味のつもりじゃなかったんだけど。

航 別にいなくてもいいんじゃないか。オフィシャルなものでもないし。

夕一 そうかもね。

美波 仲間外れってこと？

夕一 言い方は悪いけど。だって、結局さ、(旭を見る) ……。

旭 なに？

夕一 いや…この会議には意味なんてないんだから。

旭 どういうこと？

夕一 いや、父さんが言った通り、これはオフィシャルなものじゃない。拘束力を持たない。言い方は悪いかもしれないけど、自己満足だろ？

旭 自己満足なんかじゃない！

夕一 わかってる。わかってるよ。わかってるけど。

浅瀬 でも、あのひとがここにいることにも、意味があるんじゃないかなあ。

旭 そうなの？

夕一 俺たちと同じ理由があるってこと？

浅瀬 わからないけどさ。

凧 でも、他に考えられる？

夕一 信じられないよ。

美波 信じられなくても、そうなってる。

旭 ……。

全員 ……。

旭 ……わかりました。一端お開きにします。ありがとうございます。

全員、三々五々に散って行く。

5・1

遷移。自宅。

踏切の音。カラスの鳴き声。

旭、現れる。ごろんとしている。

部屋の床には判例百選などの法律関係の書籍がいくつか置かれている。チャイムが鳴る。

旭 お、来たなあ？

チャイム。

旭 ……。

また、チャイム。

旭 開いてるよー。

夕一、現れる。

夕一 ……。

旭 ……。

夕一 あの。

旭 うん。

夕一 久しぶり？

旭 ただいま、でいいんじゃないの？

夕一 (合点がいったように) だよな！ そうだよな！

旭 変わってないでしょ、別に。

夕一 踏切でさ、やっぱり十分くらい待たされて。

旭 家の前の？

夕一 うん。

旭 開かずの踏切だもん。

夕一 なんか、ああ帰ってきたなあ、なんて思った。

旭 そんなところで？

夕一 昭吾は？

旭 朝から出かけてる。

夕一 なんだよ。

旭 図書館かな、多分。
夕一 勉強熱心だなあ。
旭 それか、美術館か。
夕一 どっちにしろさ。
旭 そうだね。
夕一 お土産あるぞ。
旭 え、ほんと？ ありがとう。
夕一 東京ばなな。
旭 ……えー？
夕一 あれ、嫌いだったっけ？
旭 好きだけどさあ。どこだっけ、出張先。
夕一 エジプト。
旭 なんかあるじゃん？ スフィックスの置物とか。
夕一 あ、そういうのがよかった？
旭 よくないけど。
夕一 (本を手にとって) うわ、難しそうな。
旭 ちよつと、ひとの本。
夕一 ごめんごめん。
旭 これが仕事道具になるんだからね？
夕一 ごめんって。そっちはどうなの？
旭 私？
夕一 うん。ロースクールだっけ？
旭 大変だよ。覚えること多すぎ。判例に、法理に……傍聴も何回も
いかなきゃだし。
夕一 頑張れよ。
旭 頑張ってるよ。
夕一 そうか。そうだよな。ごめんな。
旭 え？ いや、そんな真面目になられても困るんだけど。

夕一 頑張れよ、つて言ったら頑張っていない前提じゃない？
旭 それはひねくれすぎだよ。
夕一 ひねくれてたのか、俺。
旭 伝わることもあるよ、大丈夫。
夕一 なにが？
旭 気持ち。
夕一 ……。
旭 言葉にしないでよさ。
夕一 ふふっ。
旭 いま笑った？
夕一 笑ってないよ。含蓄のある言葉だなって。
旭 ほんとお？
夕一 ほんとほんと。
旭 ほんとかなあ。
夕一 実際どうなん？ いい感じ？
旭 いい感じは、ある。ラストチャンスに懸けるよ。
夕一 え？
旭 受かるにしろ落ちるにしろ、今年でおしまい。
夕一 なんて。
旭 あんまりだらだら継りついてもね。
夕一 でも。
旭 いいの。最初から、3回までって、自分で決めてたから。
夕一 そっか。
旭 うん。
夕一 あっ。
旭 どうしたの。
夕一 ちよつと聞いてよ。
旭 やだ。

夕一 いいから。
旭 なにさ。
夕一 エジプトとかけまして、裁判官とときます。そのころは？
旭 どちらも「さばく」でしょう。
夕一 うまくない？
旭 70点。
夕一 もう一声。
旭 74点。
夕一 刻むなあ。
旭 ねえ。
夕一 くん？
旭 ちよつとは聞いてるんでしょ。
夕一 なにを。
旭 店のこと。
夕一 そりゃちよつとくらいは。
旭 どれくらい？
夕一 どれくらいあったってなあ。
旭 店畳むの来年だろうって。
夕一 ああ、うん。それは聞いた。
旭 昭吾が店継ごうとしてるのは？
夕一 マジ？
旭 うーん。
夕一 いや、だって、老朽化だろ？ 取り壊すって聞いたぜ。
旭 そうだよ。
夕一 移転ってこと？
旭 お母さんはそのつもりないみたいだけど。
夕一 面倒なことになってんなあ。
旭 まあね。荷物置いてくれれば？

夕一 今度はちゃんと買ってくるから。
旭 ？
夕一 木彫りのスフィングス。
旭 いらぬ。冷蔵庫に入れてくる。
旭、去ろうとして、
チャイム。
潮田、現れる。手には紙袋を持っている。
潮田 どうも。潮田です。
旭 潮田さん。あれ？ どうしたんですか？
潮田 いや、夕一くんが帰ってきてるって話だったから。あ、これ、お土産です。
夕一 ……。
旭 ……東京ばなな。
潮田 旭ちゃん好きだったよね、と思って。
夕一 ……はじめまして。船坂夕一です。
潮田 こちらこそ、はじめまして。潮田洋太と言います。
旭 玄関で立ち話つてもあれですよ
潮田 ああ、いや、大丈夫。夕一くんの顔を見たくて、とりあえずそれだけなんだ。じゃあ、食べちゃってよ、それ。ごめんね、ばたばたして。
夕一 潮田さん、俺、三日くらいはここにいます。
潮田 ありがとう。それじゃ、また。
潮田、おみやげを旭に渡して去る。
夕一 悪い人じゃなさそうだけど。
旭 いい人だよ。

夕一 そっか。

旭 うん。冷蔵庫に入れてくるね。

夕一 俺も荷物置く。父さんの部屋、まだ空いてる？

旭 物置になってるけど、お兄ちゃんなら大丈夫。

夕一 どういう意味だよそれ。

二人、去る。

5・2

「わだつみ画房」店内。濱野がガラス瓶を眺めている。
ガラス瓶の中には青い顔料が入っている。

濱野 やっぱいいいなあ……。

浅瀬、現れる。濱野の後ろでカウンターを窺っている。

濱野 (浅瀬に気づいて) あ、どうぞ。

浅瀬 え？

濱野 どうぞ、どうぞ。

浅瀬 あ、大丈夫です。

濱野 はあ。

浅瀬 買い物ではなくて、こちらのご主人に用事が。

濱野 ああ、そうなんですか。

浅瀬 買わないんですか。

濱野 え？

浅瀬 それ。

濱野 あ、これ。まさか！ 私じゃ手が出ませんよ、もったいなくて！

浅瀬 もったいない？

濱野 はい！ お金もそうですし、まだ実力がおつついてないので。

凧 あおいちゃん、ごめんねえ、お待たせえ！

凧、現れる。

凧 (絵の具を渡して) やっぱりセルリアンはなかった。ターコイズ

ならあるけど。マイメリのセルリアンも一応……。あれ、先生？

浅瀬 どうも。

濱野 ターコイズは違うんだよなあ。マイメリのいくらです？

凧 十二ミリで二八〇〇円。

濱野 うーん……高い……！

凧 まあねえ。でも、そのぶん発色はいいはずよ。

濱野 セルリアンがいい……マイメリ……二八〇〇円……。

凧 先生はどうしました？

浅瀬 近くを通りがかったものですから、資料をと思って。

凧 わざわざすみません。

浅瀬 教師ですから……。大学の奨学金にもいくつか種類がありますので、その要綱です。あと国内の、外国語系の学部のパンフレットも。

凧 しっかり読ませてもらいます。

浅瀬 じゃあ僕はこれで。

凧 ああ、お茶でも飲んでってください。

浅瀬 いえ、まだ予定もありますので。

凧 せめてペットボトルのお茶でも。折角来ていただいたのに。

浅瀬 かたじけない。

凧、去る。

濱野 発色っても、こっち(小瓶)とは比べ物にならないだろうしなあ。

浅瀬 そんなにいいものなんですか、それ（小瓶）。

濱野 金よりも高いです。

浅瀬 え。

濱野 いや、本当に。

浅瀬 それ、粉？ 砂？

濱野 顔料です。絵具の素、かな。これは天然の岩石から抽出したやつ

浅瀬 で……大体グラムあたり一万円は切りません。

浅瀬 安い。

濱野 天然ものでも、この純度のやつは、関東でもここくらいしか取り

扱ってないんです。凄いい店なんですよ、実は。あ、実はって

言ったら失礼ですね。

浅瀬 そんな希少なんですね。

濱野 アフガニスタンとその周辺でしか取れないみたいです。

浅瀬 ほほう。その、それ……えーと。

濱野 ウルトラマリン。

浅瀬 ああ、だからこんな深い青なんですか。

濱野 え？

浅瀬 ウルトラマリン。超海。確かに海っぽいなあって……あれ？ 違

濱野 惜しい。海を越えて、です。

浅瀬 海を越えて。

濱野 物好きの絵具です。

浅瀬 ……物好きですか。

濱野 はい。

凧 現れる。

凧 先生、お待ちせしました。

浅瀬 ありがとうございます。聞きたいことがあれば、いつでもご連絡

ください。

凧 御親切にどうも。

浅瀬 いえいえ、教師ですから。それでは！

浅瀬、去る。

濱野 あの、どっちも買います。

凧 まいどあり。頑張っている絵描いてね。

濱野 はい。あと、（小瓶を渡して）これも、ありがとうございました。

凧 本場にこれが好きなんだね。

濱野 この深い深い青は、さすがのアフガニスタン直輸入だよ、って

感じですよ。

凧 わたしもなの。

濱野 ですよ。いいですよね！

凧 わたしはこのお店を引き継いだけで、審美眼なんて全然ないけ

ど、それでも……。

濱野 ……。

凧 この色、好きなのよ。

濱野 本当に、凄いきれいな色だと思います。

凧 ありがと。あの人も喜ぶわ。

濱野 ……。

凧 あの人が販路を開拓してね。売れないと思う、って本人は笑って

たけど、それでも箔は必要だって。

濱野 箔、ですか。

凧 お店としてのね。うちの店で、これだけは自慢できる！ ってと

ころがないとだめだって、そういうポリシーだったみたい。

濱野 あの。

凧 なあに？

濱野 お線香あげることってできませんか？

落雷。豪雨。

5・3

遷移。船。

濱野の姿はない。

凧 ……ひどい雨。

大きな揺れ。

凧 うわっ。

航、現れる。

航 いやあ、またひどくなってきたな。

凧 どこか悪くなったりしなければいいけど。

航 そんなヤワな造りじゃないさ。

凧 でも。

航 ま、一応あとで見に行こう。揺れで荷物が崩れてたりするかもな。

凧 そうね。

航 なにしてたんだ？

凧 ああ、海を見てたの。

航 海。

凧 真っ暗だなあって。

航 そうだなあ、真っ暗だ。

凧 真っ黒かも？

航 ああ、そっちなかも。

凧 なにそれ、適当。

航 どっちでもある。

凧 まあ、そうかも。

航 海と言えばさ。

凧 うん。

航 あれ、売れた？

凧 売れてない。

航 (笑う) だよなあ！

凧 笑うところ？

航 すまんすまん。

凧 でも、買いたって言うてくれるひとはいますよ。

航 本当か？ そりゃ物好きだなあ。

凧 ええ。

航 俺のこだわりも、無駄じゃなかったってわけだ。

凧 ……。

岸部、現れる。

岸部 ねえ、全然飲み物ないんだけど。

航 ええ？

凧 まだ水結構残ってたはずだけど……。

岸部 どっかに予備ある？

凧 ありますよ。ちよつと待っててください……。

美波、小走りで現れる。

美波 ちよつとちよつと。

航 どうした。

美波 手エ貸してくれない？ 私の棚が倒れちゃって！

航 揺れのせいかな！

航 行きましょ。

岸部 ちよつと、あたしの水は？

風 みんなでやればすぐですよ。

岸部 あー、もう。わかったわよ。

美波 ありがとうございます。

五人、去る。

5・4

エアロビの音楽が流れる。

浅瀬、忍者の恰好で現れる。

浅瀬 ワン、トゥー、スリー、フォー、ワン、トゥー、スリー、フォー。

疲れても笑顔で、セーの、ワン、トゥー、スリー、フォー、ワン、トゥー、スリー、フォー。

岸部、現れる。

岸部 ……。

浅瀬 ……。

岸部 (スマホを取り出して) あ、もしもし、警察ですか？

浅瀬 誤解でござる。

岸部 繋がらないし。

浅瀬 怪しいものではござらん。

岸部 じゃあなんなの、その恰好。デリケートな問題？

浅瀬 ああ、いや、全然。子供のころの夢でして。

岸部 夢？

浅瀬 はい。

岸部 忍者が。

浅瀬 はい。

岸部 ふーん。

浅瀬 岸部さんはどうでした？

岸部 あたしは女優よ。ドラマとか、映画とか、そういうの主演を張るんだってずっと思ってた。

浅瀬 ってことは、叶ったんですね。

岸部 まだ道半ばよ。トップにはまだ遠いし。

浅瀬 頑張ってください。

岸部 なに？ あんたもあたしのファンだったの？

浅瀬 いえ。

岸部 いえ、じゃないっつーの。

浅瀬 でも、夢を叶えるってのは難しいことなので。道半ばでも、それができている岸部さんは、凄いなと思ってます。

岸部 ……なに、急に。

浅瀬 僕は確かに、あのころ、忍者になりたかった。忍者に憧れてたんです。

岸部 んで、なれたの？

浅瀬 あはは。なれませんでした。

岸部 そりゃ残念ね。同情するわ。

浅瀬 いえ。

岸部 はあ？

浅瀬 「人生万事塞翁が馬」と言いますか、「住めば都」と言いますか。

岸部 なにそれ。先生みたい。

浅瀬 はい。教師なので。

岸部 あ、そういうこと。

浅瀬 旭ちゃんは、忍者になれる！ って太鼓判推してくれたんですけどねえ……。

岸部 ……。

浅瀬 忍者になれなくてよかった。

浅瀬、忍者の衣装を取る。

浅瀬 いま、実感しました。

岸部 ……。

浅瀬、進行方向を向いて。

浅瀬 よーそろー。

岸部 わかんないでしょ。

浅瀬 わかりますよ。明白です。

岸部 ……。

浅瀬 では、これにて失敬。ニンニン。ドロソ。

浅瀬、去る。

岸部 あ、ちょっと。おーい。聞きたいことあったんだけどお。

浅瀬からの返事はない。

6・1

旭と夕一、現れる。手には雑巾と、まとめた雑誌の束を持っている。

旭 んじゃ、そういう感じで。

夕一 俺が雑巾がけで。

旭 私がゴミ捨てたりするから。

夕一 場所も広いし、時間かかりそうだ。

旭 やれる限りをやるんだよ。

夕一 大したことなんてできないぞ。

旭 些細なことでもいいんだって。

夕一 掃除とか？

旭 うん。

夕一 そうかなあ。

旭 些細なことでもできないなんて格好悪くない？

夕一 悪いな。悪い！（指さして）お前いいこと言うなあ。

旭 人を指ささないで。ほら。雑巾。

夕一、雑巾を受け取って、

夕一 （旭に返しながら）座布団1枚。

旭 は？

夕一 いいこと言ったら座布団1枚だろ。

旭 ……なるほど。確かにね。

夕一 だろう？

旭 お兄ちゃんもたまにはいいこと言うね。

夕一 一言余計だよ。

旭 いいこと言ったから、（雑巾を渡して）座布団1枚。

夕一 （指さして）お前、騙したな。

旭 指。

夕一 （指を戻す）……。

旭 お兄ちゃんはずっと馬鹿だねえ。

夕一 反論できない。

旭 潔いね。

夕一 武士だからな。

旭 武士なんだ。

夕一 日本人だぞ。

旭 うち、多分祖先は漁師だと思うよ。

夕一 いいんだよ。心意気の問題だから。

旭 ふーん。切腹とかするの？

夕一 うん。

旭 辞世の句も詠んじやうの？

夕一 うん。

旭 はい、ここで一句。

夕一 「この世をぼどりやお暇に線香の煙とともに灰さようなら」。

旭 なにそのチョイス。

夕一 渋いだろ。十返舎一九。

旭 なんて十返舎一九。

夕一 「一句」読ませていただきました。

旭、雑巾を渡して、

旭 ざぶとーん！

夕一 いらんよ、いらんよ。

岸部 なにやってんの？

夕一 (旭に) なにやってんの？

旭 なにもやってない。あえて言うなら、無だね。

夕一 無かあ……。

岸部、雑誌の束を手に取りとうとする。

旭 触らないでください。

岸部 捨てんの？ 捨てんでしょ？

旭 ……捨てます。

岸部 なら触ったっていいじゃん。ちよつと読ませてよ。暇でさあ。

岸部 ジャンプ？ マガジン？ サンデー？

旭 そういうのじゃないです。

岸部 うわ。法律？ はん……判例百選。はー。

夕一 ……捨てんの？

旭 まあね。嵩張るからね。

夕一 そっか。

岸部 ねえ。

夕一 なんですか？

岸部 あの、カメラ持ってるやついるじゃん。

夕一 みーねえですか？

岸部 みーねえ？

旭 美波さんが、どうかしましたか？

岸部 いや……あの人カタギ？

夕一 どういうことですか。

岸部 いやあ……まあいいや。うん。

旭 ちよつと。岸部さん？

岸部 あと、そうだ。あの、あれ、昭吾？ ってのに言っといてよ。好きにやんな、って。やりたいことやんなって。

旭 なんて？

岸部 なんて？

旭 なんて、岸部さんがそんなことを言うんですか？ 昭吾の名前

だつて知らなかったのに。

岸部 ……私ってさあ、善人だからさあ。

旭 ……。

岸部 周りがあるこれ言うのをよしとはできないわけよ。

旭 大事な将来がかかっているんです。

岸部 大事じゃない将来なんてあんの？ 変なの。

旭 夢は叶ったほうがいいじゃないですか。

岸部 そうね。

旭 そのために、私たちが背中を押してあげなくちゃいけないんです。

岸部 なんて？

旭 なんて？

岸部 なんてあんなにそんなこと考えるの？

旭 だって、優柔不断で泣き虫のあいつが、言ったんです。店を継ぎたいって。悩んで悩んで悩んで、それで。きっと今だって悩んでいる。

夕一 旭。

旭 お兄ちゃん、だって。

夕一 岸部さんも、すいませんけど。

岸部 わかった、わかったわよ。

旭 昭吾のことがどうでもいいなら、いまずぐ降りてください。

夕一 旭。

旭 だってそうでしょ。

岸部 よーそろー、って言うんですよ。

旭 え？

岸部 異常なし。問題なし。このまま真つすぐ。

旭 ……。

岸部 よーそろー。

旭 ……。

岸部 自分を信じてりゃ、そうなのよ。それだったのにさあ。

旭 ……。

岸部 ……しらけちゃったわ。

岸部、去る。

旭 お兄ちゃん。

夕一 さん？

旭 わたしたちだけは、何があっても昭吾の味方でいようね。

夕一 ……。

旭 絶対だよ。

6・2

航、風、美波が現れる。航は腰を押さえている。

航 いて、いてて。いた、ちょっと、もう少しゆっくり。

風 もう。大丈夫なの？

美波 椅子に座る？ 横になる？

航 い、椅子。

風 湿布持ってくるからね。

航 ゆっくり座らせてくれ、ゆっくりだぞ。

美波 (風に) いくよ。せーの。

風 せーの。

航 いててて……。

夕一 どうしたのさ。

旭 ぎっくり？

航 一步手前。

夕一 変な体勢にでもなった？

風 棚をね。

旭 棚？

美波 あたしの棚が倒れちゃって、手伝ってもらったんだけど。
風 湿布とってくるわね。

美波 お願ひします。

航 いてて……。

旭 なにやっつてんのさ。

夕一 安静にしときな。

航 おう、そうする。

旭 なんかできることある？

航 あー……じゃあ、悪いけど、メシ。

夕一 今日父さんの当番？

航 カレーの材料が冷蔵庫に入ってるからさ、それでうまくやっつてくれ。

旭 別にいいけどさあ。

航 あ、どろっとしててごろっとしてるやつだぞ。わかってるよな。

旭 わかってるよ。

航 しゃばしゃばのは嫌なんだよ。

旭 わかってるってば。お兄ちゃん、行こ。

夕一 いや、俺、掃除の途中だし。

旭 あ、そっか。ならサボってないで。

夕一 理不尽じゃないか？

旭 私もご飯作ったら片づけなきゃなんだから。

夕一 わかった、わかったよ。父さん、平気？

美波 一応付き添っておくよ。

旭 ごめんね。

美波 もとはと言えば私のせいだしね。

夕一、去る。

美波 美味しいカレー作ってね。

旭 任せておいて。

旭、去る。

美波 ……。

航 ……。

美波 ねえ、おじさん。

航 ん？

美波 お盆にちゃんと帰ってきてんの？

航 ……。

美波 ナスときゅうりのお供え、毎年あたしの仕事だからさ。

航 ……。

美波 来るときは馬で急いで、帰るときは牛でゆっくり、だっけ。

航 ……迷惑かけたな。

美波 しょうがないよ。

雷鳴。大きな揺れ。

美波 また天気が荒れてきたなあ。

暗転。

美波 あ、停電。

7・1

遷移。カラスの鳴き声。踏切の音。

「わだつみ画房」店内。

濱野、現れる。手には紙袋を持っている。

濱野 ごめんくださいーい。あれ？ すみませーん。

旭、現れる。

旭 すいません。いらっしやいませ。

濱野 あれ？

旭 ああ、お母さんが用事で。

濱野 お母さん？

旭 娘です。

濱野 なるほど。

旭 留守番を頼まれてしまつて。

濱野 そっか、いないんですか。

旭 え？

濱野 店長。

旭 お昼過ぎには帰ってくるって話なんですけど。用事ですか？

濱野 用事というか、お礼をと思つて。個展に来てくれたので。これ、渡しておいてもらえませんか？（紙袋を渡す）

旭 個展？

濱野 はい。私美大で絵を描いてまして。

旭 ああ、こないだ言つてたやつかな。

濱野 来てくれてありがとうございます。

旭 伝えておきます。

濱野 あ、そうだ。ホルベインのセルリアンブルーって入荷してますか？

旭 えーと、……ごめんなさい。ちょっと待つてもらえますか？

濱野 ならまた今度にします。

旭 すいません。自分ちのお店のことなのに、わかんないって恥ずかしいですよ。

濱野 そういうものじゃないですか？ 興味がなければ。

旭 なんか、最近、興味がなくなることが恥ずかしいって思うようになってきて。

濱野 へえ……。

旭 個展ってどんな感じなんですか？ 美術館に絵がいっぱい並ぶ、

みたいな？

濱野 まさか！ そんな大それたのじゃなくて……アートカフェを借りて。

旭 どんな絵を描かれるんです？

濱野 どんな絵。どんな……水彩で、川を。

旭 どうして？

濱野 ながいです？

旭 いや、どうして川なのかな、って。

濱野 うーん、どうしてって言われると難しいですね。

旭 家の傍に川があった？

濱野 いえ、そういうわけじゃなくて。えーと。

旭 無理には言いませんから。

濱野 でも、モチーフを説明できないのってカッコ悪いですから。……そうですね、私たちは川を泳いでるんだってイメージがあるから、

かな。

旭 川。

濱野 どこまでも続いている川があつて、私たちはずっとそこを泳ぎ続けているんです。一人で、孤独に。隣で泳いでる人がいても、それはあくまで他人で、たとえ溺れそうになっても助けてくれやしなくて……それが人間の生き様なんじゃないかって。

旭 哲学的ですね。

濱野 まだ全然納得のいく川は描けてなくて。青が違うんですよ。もっと深い青なんです。脚がつくような川じゃなくて、泳ぐのを止めたらずぐにでも溺れちゃうような……。

旭 青が違う、かあ。難しい。

濱野 このお店に、天然のウルトラマリンがあつて。

旭 ウルトラムリン？

濱野 絵の具の素です。天然は珍しくて、このあたりだとここでしか取り扱ってない。

旭 それも知らなかったなあ。

濱野 ……あの、天然のウルトラマリンを使えば、きっと納得のいく色が出るんじゃないかと思うんです。

旭 ……。

濱野 お店、畳んじやうって聞きました。

旭 ええ、まあ。

濱野 いやですよ買う前にお店なくなっちゃってたら。

旭 昭吾が…弟が、継ぐとか継がないとか、そういう話はしてくれてるんですけど。

濱野 本当ですか？

旭 でも、悩んでるみたいで。

濱野 継いでもらわないと困っちゃいます。天然のウルトラマリン、ほんと、もう、ここでしか買えないんですから。

旭 ネット通販とかは。

濱野 ありますけど、「わだつみ画房」さんのは別格ですよ。多分特別なルートがあるんじゃないですか。ずっとアフガニスタンまで直接買い付けに行つてたつて話ですから。

旭 ……昭吾は、それを残したいのかな。

濱野 え？ いやあ、どうなんでしょう。でも、あの、すいません、お名前…。

旭 旭です。船坂旭。

濱野 旭さん、私にできることがあつたら何でも言つてください。私も昭吾くんのこと、応援してますから！

旭 ……ありがとうございます。

濱野 本当ですからね！ 本当に昭吾くんにはこのお店継いで欲しいと思つてますから！ それじゃあ、また来ます！

濱野、去る。

旭 ……溺れたら、苦しいのかなあ。

7・2

外から凧、潮田の声が聞こえてくる。

凧

凧

潮田

二人、現れる。

旭 あ、おかえりなさい。潮田さんも。

潮田 どうも、お邪魔します。

凧 留守番お願いしてごめんね。

旭 別に。暇だったし。

凧 あ、そういうこと言うの？

旭 入れ違いになっちゃったね。

凧 なにが？

旭 いや、ついさつき…。

凧 ……あ、聞き忘れた、名前。

旭 誰か来たの？

旭 あ、うん。美大の女のひとが、個展に来てくれてありがとうつて。

風 ああ、あおいちゃん。わたしも楽しませてもらったからいいのね。

風、紙袋を貰う。中身を見る。

風 あら、東京ばなな。よかったわね、旭。あんたこれ好きじゃない。

旭 お母さん、これからまた出るんだよね？

風 うん。市が主催でね、著名な方を呼んでの講話があるの。

潮田 最近の芸術ってのは、もう本当に裾野が広がって、勉強勉強の毎日だからね。

風 夜ご飯に食べたいものある？ 帰りになにか買ってこようか。

旭 あー……どうしよつかな。

風 じゃ、ちよつとこれだけ冷蔵庫入れてくるね。

風、去る。

旭 広がってるんですか？

潮田 ?

旭 裾野。

潮田 ああ、さっきの話。

旭 はい。

潮田 旭ちゃんは、絵とかよく見る？

旭 実は、あんまり。

潮田 そっかあ。まあそうかもね。絵画とかさ、芸術って思ってるより

身近なんだけど、身近に溶け込みすぎてて実感わかないもんなあ。

旭 そうなんですか？

潮田 油絵とか彫刻だけが芸術って時代はとっくの昔さ。広告のロゴと

か看板とか……車に建物もデザインしてる人がいるわけだし。

旭 あっ、そうですよね。

潮田 今は小学生でも漫画を描く時代だから、Gペンにコピック、スク

リーントーンなんかも揃えておきたいよね。デジタルでしか作業しない人も増えてきてる。こないだなんて、昭吾くん「NF Tってなんですか？」って聞かれて、ぼくはしどろもどろになっちゃってさ。これはちよつと気合を入れて勉強しなおさなくちゃな！ って思ってるころなんだ！

風、現れる。

風 お待たせ。

潮田 よし、行こうか。

風 旭、食べたいもの決まった？

旭 お母さん、私もついていい？

風 どういう風の吹き回し？

旭 いや、面白そうだなって。急に増えるともまずいかな？

風 どうか？

潮田 大丈夫だと思うよ。定員は決まってたと思うけど、満員御礼って

ことはないだろう。お店は？

風 うーん……折角、旭が興味持ってくれたのに、断るのは申し訳な

いなあ。

旭 ごめんね。

風 気にしないで。嬉しいんだから。

潮田 そろそろ出ないとまずいかもしれない。

風 もうそんな時間？

旭 じゃあシャッター降ろしてくるから、お母さんは張り紙書いと

てよ。

風 はいはい。

潮田 とりあえず車回してくるよ。

旭　お願いします。

三人、それぞれ去る。

7・3

遷移。「ヨコハマホライゾン」ブース。

岸部　さて、現在時刻は丑三つ時まであと少し、一時四十七分。夜も

とっぷり更けてまいりました。ですが「ヨコハマホライゾン」、
そしてわたくし岸部汀、このままアクセル全開で突っ走っていき
たいと思います。さてお便りがまた一通。「モーニングコール」
さんからです。この時間にモーニングコールとはこれいかに、っ
て感じですが……「知り合いが聞いているということで、気に
なって聞き始めました。おたよりも初めて出します」……うんう
ん、その知り合い、ナイス！「最近、自分の無知を恥じること
が多いです。知っているべきことなのに、知らないことばかり。
どうしたらいいでしょうか」とのことですが……。

7・4

遷移。船上。波の音。海鳥の鳴き声。

岸部が台本を読んでいる。

岸部　……。

美波が現れる。

美波　……。

岸部　……。

美波　……。

岸部　なに？

美波　あ、すいません。何読んでるのかなって。

岸部　脚本よ。次の映画の。

美波　あ、また出られるんですね。

岸部　オフレコでお願いね。

美波　はい、大丈夫です。

岸部　つきあってよ。

美波　え？

岸部　台詞合わせ。こっちの業界のひとなんでしょ、あんた。

美波　わたしはカメラマンですから。

岸部　別にいいわ。演技力求めてるわけじゃないんだし。

美波　でも。

岸部　わかったわよ。なら動きとか表情の意見聞かせてよ。カメラ映り
なら専門でしょ。

美波　……。

岸部　ってか、フリー？　どっかの会社？　もし機会あったらあたしの
こと売り込んでおいてよ。ね。

美波　やめといたほうがいいと思いますよ。

岸部　なんで？

美波　AVですから。

岸部　はあ？

美波　AVです。アダルトビデオ。

岸部　の、カメラマン？

美波　を、作ってる会社の、です。

岸部　ふーん。

美波　ひきました？

岸部　いや？　ただ、女性でもなれるんだな、って。

美波 仕事選んでられませんし。
岸部 親に反対されたでしょ。
美波 ぼかして伝えてます。
岸部 じゃあアレって小道具？ それともヤバイやつ？
美波 アレ？
岸部 鞆の中に入ってたヤツ。
美波 見たんですか。
岸部 見えちゃったの。わざとじゃない。ほら、棚を直してるときにさ。
美波 ……。
岸部 帯してあったよね。ってことは100万くらいなの？
美波 はい。
岸部 本物の札束なんて初めて見た。
美波 ……。
岸部 座れば？
美波 (無視して) 岸部さんは。
岸部 なに。
美波 どうやって夢を叶えましたか？
岸部 ……。
美波 一度聞いてみたかったんです。
岸部 才能と努力と運。
美波 ……。
岸部 単純な話でしょ。
美波 岸部さんは。
岸部 なに。
美波 昭吾に。才能と、努力と、運が、あると、思いますか。
岸部 知らない。
美波 ……。

岸部 ま、目指すのはタダだし、才能と運があるんなら、あとは努力が
勝手に連れてってくれるでしょ。
美波 その結果、不幸になったら？
岸部 はあ？ そんなの初めからわかるわけないじゃんか。
美波 そうです。
岸部 考えるだけ無駄よ。
美波 だけど、わからないのに外野が口出すのって、それこそ無責任
じゃないですか。
岸部 ……。
美波 勝手に応援するなんて…。
岸部 ……。
美波 努力の結果がこんななら、あたしは努力しなかった。こんな才能
なんていらなかった。
岸部 才能があるのはいいことじゃん。
美波 新進気鋭のA V監督だって賞もらって、素直に喜べます？
岸部 ……あー。
美波 百万だって…あんなの、何に使ってんですか。
岸部 ……。
美波 ……。
岸部 ぱーっと使っちゃえば？ 散財、散財。
美波 ……。
岸部 ……はあ。
美波 ……岸部さんは。
岸部 なに。
美波 どうして、この船に？
岸部 さあ？
美波 昭吾と知り合いじゃないんですよね。
岸部 何回言わせんのよ。知らないってば。

美波 じゃあ、なんで？

岸部 あたし、無責任なのよ。

美波 え？

岸部 すぐに言っちゃうの、よーそろーって。あはは。

美波 ……？

旭 (アナウンス) 「十一時になりました。これより定例会議を行いますので、乗組員の皆様は、速やかに集まってください」

岸部 ん？

美波 今日じゃなくない？

8・1

旭、現れる。

旭 ……。

旭、書庫にまとめてあった本を掴み、片っ端から船の外へと放り投げ
ていく。泣いているようにも見えず、事務作業のようにも見えず。

旭 みーねえ。

美波 ……。

旭 みんなを集めて。

美波 どうしたの？

旭、懐から拳銃を取り出す。

旭 この船は私がジャックしました。命が惜しければ言うことを聴いてください。

美波 本物？ 冗談はやめてよ。

銃声。

岸部 やば。

旭 信じられない？

美波 ……。

美波、去る。

岸部 思い切ったことすんねえ。

旭 こうでもしないと。

夕一、現れる。

夕一 旭、こっちで何か破裂しなかったか？

旭 お兄ちゃん、動かないで。

夕一 何やってんだ。

銃声。

旭 動かないで、って言ってるでしょ。

凧と航、浅瀬が現れる。

航 旭！

凧 どうしたの、なんでこんなこと。

旭 お兄ちゃん、私、司法試験駄目だったんだ。

夕一 ……。

遠雷。

雨が降り始める。

旭 やれるだけやったつもりだったし、後悔はしなれと思っただけ……でもね、わかったんだ。昭吾にこんな思いさせたくないって。夕一 それで昭吾は幸せになるのか？

旭 なるよ。昭吾は店を残したがつて。その夢を叶えさせるの。幸せにならないわけがない。

夕一 高校卒業してすぐに？

旭 うん。

浅瀬 昭吾くんは悩んでる。

旭 だから背中を押してあげるの。

浅瀬 違う。

旭 なにが？

凧 先生と話してるの。本当に外国から画材を輸入したり、……つまり貿易よね。そういうことがしたいなら、大学に行つて学ぶべきじゃないのかつて。

浅瀬 返済義務のない奨学金も、いくつもある。お母さんと相談して、選択肢を増やしてあげようつて。

旭 お父さんは？ お父さんはどう思つてるの？

航 俺は、昭吾に任せるよ。

旭 そればかり！

航 俺だつて死にたくなつてなかつた！

旭 ……あ。

航 死にたくなつてなかつた……。

旭 ……ごめん。ごめん。

航 店を残したいつて昭吾が言つてくれたとき、俺は……ははは。天にも昇る気もちだつた。見届けるだけだ。遠くから見守ることしかできないんだから。

夕一 みんな昭吾の幸せを願つてんだ。

旭 そうだよ！ 昭吾は店を残したい。お父さんだつてそう。わたしだつてそう！

凧 わたしもそうなの。

旭 ……え。

航 ……。

凧 わたしも残したいの。当然じゃない。だつて、うちには、世界で一番きれいな海の色があるんだから。

旭 ……。

凧 昭吾の人生の船出には、わたしたちの夢も一緒にのつてつて欲しいのよ。そのためには、時間が必要。旭、わかつて。

8・2

美波 昭吾はあんたの代わりにならないんだよ。

旭 そんなつもりじゃない！

美波 夢が叶わないから不幸せになるわけじゃないし、夢が叶つたから幸せになるわけでもない。

岸部 住めば都、だつて？

全員 ？

岸部 住めば都。そう言つてたじゃん。ね、先生。

浅瀬 (合点がいつて) ああ……。ええ、はい。そのとおりです。声楽家になれなくても、忍者になれなくても……そうじゃないと、この船には乗つていなかつたでしょう。

美波 信じらんない。

浅瀬 信じてください。

美波 だつたら、(百万円を取り出して) これにも意味があるのかな？

全員、啞然。

美波 おばさん、これ、あげます。

凧 ええっ!?

美波 昭吾の学費か生活費にでもしてやってください。

凧 ちょ、ちょっと待って! 受け取れないし、そもそもこんな大金

……!

美波 いいんです、いいんです。なら、出世払いで返してください。

凧 どういうこと、美波ちゃん。

美波 話すと長くなるんで。でも……ふう……。

旭 (アナウンス) 「十一時になりました。これより定例会議を行いますので、乗組員の皆様は、速やかに集まってください」

旭 あれ? なんで?

旭 (アナウンス) 「十一時になりました。これより定例会議を行いますので、乗組員の皆様は、速やかに集まってください」

濱野 いや、押したよね? 押したって、ボタン。これかなあ? こっ

ちか? ……よし。

8・3

濱野、現れる。手にはペットボトルの水を持っている。

8・3

濱野、現れる。手にはペットボトルの水を持っている。

濱野 大変失礼しました……。

凧 あおいちゃん!?

濱野 あ、どうも! 店長さんも乗ってたんですね!

凧 それは私のセリフ! なんでこの船に……?

濱野 旭さんに聞きました。

凧 旭に?

濱野 はい。弟さんがいろいろと大変な時期だと!

旭 来てくれたんですね。

濱野 あ! あの、みなさんに聞きたいことがあるんですけど。

全員 ……。

濱野 私たち、いる必要ありますか?

全員 ……。

濱野、ペットボトルの水を飲んでいる。

濱野 いくら考えて考えて考えて、その末の結論をぶつけあつたって、

どうせ最後は昭吾くん次第なんですよ? 私たちになにができ

るっていうんですか。

全員 ……。

濱野 孤独に川を泳ぐ私たちは、ただ待つことしかできないんです。

全員 ……。

旭 (アナウンス) 「十一時になりました」

濱野 うわ、止まってない。

旭 (アナウンス) 「これより定例会議を行いますので、乗組員の皆様

は、(切れる)」

濱野 ……あれ?

8・4

潮田、現れる。

潮田 そんなことはないです。なにより、そんな悲しいことってないで

しょう?

航 ……。

潮田と航、目があう。

潮田 (航に深々と頭を下げ) 潮田洋太です。

航 (同じく) 船坂航です。

潮田 お初にお目にかかります。ご挨拶に伺いたくはあったのですが。

航 いえ。……潮田さん。

潮田 はい。

航 家族を、よろしく頼みます。

潮田 ……はい。……旭ちゃん。

旭 はい。

潮田 僕も、話し合いに混ぜてもらってもいいですか？

旭 ……はい。

全員、それぞれ会議の準備を始める。

濱野 ……なんでかなあ。

夕一 考えちゃうんだよ。

濱野 ……。

夕一 考えちゃうんだ。

濱野 ……。

夕一 (濱野に) なんでだろうな？

航 俺も。

凧 私も。

旭 私も。

美波 私も。

浅瀬 俺も。

岸部 あたしも。

潮田 僕も。

旭 お集まりの皆さんには、既にご承知だとは思いますが、依然として天候は不順、夜明けも遙か、新大陸は影も形も見えません。

全員 ……。

旭 針路についての、話をしましょう。

全員 ……。

旭 ここに会議の開始を宣言します！

暗転。

9・1

「ヨコハマホライゾン」ブース。

岸部

はい、みなさん、時刻は朝の二時を回りました。もうそろそろお別れの時間です。なんで楽しい時間ってこんなに早く過ぎていくんでしょう。明日、学校の人も、会社の人も、勿論お休みの人だって、あたしのラジオを聴いて元気になってくれたなら、そんな嬉しいことってありません。今日も「ヨコハマホライゾン」、元気に楽しくお送りしました。それでは、本日最後のおたよりです。「グッドアフタヌーン」さんから……おお！ 久しぶりですね。ずっとお便りないから心配してました。ええと、……「明日、決めた進路のことを、親に話したいと思います。色んな人から励ましの言葉をもらいました。汀さんにも、お手紙を送ってよかったです。ありがとうございます。……あはは、ちよつと恥ずかしいねえ。……「そんなぼくの背中を押す一曲をかけてください」とのことですが……ラジオの前の皆さんも、「グッドアフタヌーン」さんにエールを送ってくださいね。それでは、今度こそ本当にお別れです。パールナリテイは勿論あたし、岸部汀がお送りいたしました。それではみなさま、さようなら。あともう少いで、夜が明けます。

明転。船上へ。

水平線の向こうから太陽がゆつくりと顔をだし、いつの間にか空が紫色になっている。

朝の気配がそこにある。

全員が倒れ、眠っている。激しい議論があったようだ。

岸部だけが起きて、水平線を眺めている。

旭、眼を覚ます。

旭 ……。

旭、夕一を起こす。夕一も目覚める。

旭 ……お兄ちゃん。

夕一 ……朝だ。

旭 ……うん。

岸部 おはよう。

旭 ……おはようございます。

二人、残りを起こしていく。

目覚めた者はそれぞれ夜明けに気づいて、息を呑む。

濱野 すげえ……。

潮田 よかった……本当に……。

航 これが見たかった。

浅瀬 いやあ、綺麗だ。

岸部 乾杯でもする？

美波 新しい日の始まりに？

凧 いいんじゃない？

旭 違う違う。

夕一 船の上なんだからさ。

航 そうだったな。

旭 そうだよ。

岸部 なんだっていいわよ。

夕一 諸君！ 我々は、航海の無事を祈るものである！ 全員、整列！

濱野 何するんです？

凧 ほらほら、あおいちゃんも。

濱野 え、でも。

潮田 きみにも資格はあるんじゃないかな。

全員、整列。

夕一 復唱！ 本日天気！

全員 本日天気！

夕一 晴朗なれども！

全員 晴朗なれども！

夕一 波高し！

全員 波高し！

夕一 よーそろー！

全員 よーそろー！

夕一 各員持ち場につかれたし！

全員 よーそろー！

音楽高まる。

朝の輝きとともに、幕。